

「想定読者」を意識した執筆指導の能動的学習としての効果

Effects of the active learning for students on writing for “specific imaginary readers”

○葛生 伸 (福井大・院工)

○Nobu Kuzuu¹ (Univ. Fukui)

E-mail: kuzuu@u-fukui.ac.jp

〈はじめに〉 自立した人材として必要なコミュニケーション能力や自己学習能力を含む自己教育能力・自己指導能力の育成を目指して具体的にイメージした読者層「想定読者」を意識した文章執筆を通じた自己学習能力の育成の試みを報告する。

〈授業実践の概要〉 平成 11 年から開講した共通教育科目「光学材料の科学」の中で、小学校高学年を「想定読者」として光の性質などの説明をするレポート課題を出してきた。その中で、「想定読者を意識した執筆指導」に対する学生の要望が多かったために、平成 23 年から 4 年間福井大学通教育科目『想定読者』を意識した説明法・自己教育法を開講した。その結果、こちらが意図した「説明能力向上」「理解を深める効果」「他人の考慮」などに多くの学生が気づいていた。さらに能動的学習を取り入れた教育を進めるために、平成 27 年度から、教員免許状更新講習や科学啓発活動で培った成果をもとに「生活の中の熱とエネルギー」を開講した。その中で、多くの学生が想定読者を意識した説明の効果を記述していた。平成 28 年の新入生から全入生対象の「大学教育入門セミナー」の後半 9 回の工学部担当部分で大学での学び方、レポートの書き方、キャリアデザイン、エンジニアリングデザインの話をする中で、想定読者を意識した執筆指導をするようにした。毎回の授業は、予習課題に対するクイズ、講義、グループワーク、300 字程度の授業要約を行う授業を行っている。予習課題クイズ、グループワークのメモ、授業要約はワークシートに書いて提出させている。さらに、各回グループワークの発展課題等を中心としたレポートを出題している。

〈授業実践の効果〉 「生活の中の熱」とエネルギーでは多くの演示実験や比喩的表現などを用いて、生活の中の熱とエネルギーに関する原理を数式なしで説明する方法を示している。その中で、サイエンスコミュニケーションの意義や想定読者を意識した説明の意義を説明している。期末試験で受講前後の変容を記述させたところ、多くの学生が想定読者を考える効果について認識していた (表)。

「大学教育入門セミナー」は本予稿を執筆段階で実施途中であるが、それらの効果を含めて「想定読者」を考えることの能動的学習効果について当日報告する。

表 期末試験答案からみる受講による変容記述

「想定読者」を 考える効果	想定読者を意識した説明による学習効果・物の見方の変容	21
	相手に応じた説明の必要性の認識・執筆スキルの向上	27
	他人への配慮の認識	12
考え方の変容	考えることや原理や仕組みを理解することの面白さの認識・疑問の連鎖	11
	多面的に考えられるようになった・多面的な考えの必要性を知った	5
実験や説明の 効果	つながりをもって理解することや理解を目指した学びの大切さの認識や実践	22
	物理・化学現象とその応用の理解や関心の増進	15
グループワーク	グループワークで自由な発言と自由な発想をすることにより、創造的に議論できることを知った	6
その他	その他	27

*右列の数字は人数。受験者数は 69 名。